

生涯学習通信

余暇ライフプラン大賞
入賞作品の紹介 2

市民の皆さんから募集しました作品のうち、四月号の三編に続き、ファミリー部門、芸術・文化・娯楽部門、コミュニティ活動部門の各部門賞三編をご紹介します。

生きがいを求め、充実した生活をはかるために、自由な行動としての余暇活動が、ますます重要性を増している折から、皆さんのご参考になることを願っています。

なお、広報によるご紹介は六編ですが、特別賞十編を加えた「余暇ライフプラン大賞入賞作品集」が、市立図書館と各地域コミュニティセンターにありますので、ご自由にご覧ください。

問合先 社会教育課 生涯学習係

〔生涯学習推進会議 生涯学習・普及啓発部会〕

部門賞（ファミリー部門）

「家族で楽しむアウトドアライフ」

犬塚 純子

我家は夫婦と子ども二人の四人家族です。長男が小二、次男が幼稚園年中と子どもたちも手がからなくなり、親子でスポーツや趣味を楽しむ年頃になってきました。主人はサラリーマンで、会社では中間管理職という立場にあり、責任やストレスも多い年代だと思いますが、休日には仕事を離れ、家族と共にレジャーを楽しんでいます。

仕事の関係で都留に住み、はや三年、いずれはこのすばらしい山梨の土地を後にする日も来ると思うと、その間に、この自然を思う存分満喫したくなり、まわりの山々や湖に出掛けています。我家も昨年、キャンプ用具一式を買い揃え、夏を中心に富士五湖湖畔のキャンプ場によく出かけるようになりました。キャンプ場ではまずテントを建

てますが、テントを建てると子どもたちは早速中に入って、トランプをしたりゲームをしたりと、もうはしゃいでいます。大自然の中にばかりとできた小さなスペースが、家族にとってひととき我家と考える、不思議な空間になるのです。

次に夕食の準備にかかりますが、キャンプのメニューを考えるのも楽しみのひとつでしょう。最小限のキッチンで、いかに要領よくおいしい料理を作れるかが腕の見せどころです。ごはんにしても、スィッチひとつの日常を離れ、鍋で上手に炊けた時の喜びといったありません。それだけで家族に自慢できる気分です。自然の中から大らかな気持ちで、子どもたちにも料理の手伝いをしてもらえます。不揃いのじゃがいもでも、子どもたちにとって自分が参加した料理は十倍おいしくなるようです。

お友だちの家族と一緒にキャンプに行くこともあるので、そんな時大鍋で作る簡単メニューを紹介します。

材料
スペアリブ 1・5 kg オレンジ
マーマレード 200 g
ねぎ・しょうが・にんにく 適当

しょうゆ・酒・水 各200cc
以上を鍋に入れ、グツグツと汁気がなくなるまで煮込むだけで、おいしいスペアリブ料理のできあがり。子どもたちも大好きです。

さて、食事の片付けも終わり子どもたちも寝しずまって、満天の星空の下ランタンの灯りで飲むお酒はまた格別です。山梨のこの美しい星空と自然を、いつまでも残しておきたいと思うひとときです。

朝食には、具をはさんだパンをアルミホイルで包み、空の牛乳パックに入れ、火をつけて焼いた、こんがりホットドッグを作ったりします。上手に焼けたか、開けるときはドキドキするものです。

昼食はうどん作りをしたこともあります。子どもたちにもこねさせて、ちょっぴり太めだけど腰のあるおいしいうどんができ、大満足でした。うどんをねかせている間に、主人と長男が本栖湖一周のサイクリングに挑戦して、長男は途中でころんだりしましたが、十二・九キロメートルの湖畔を完走してとても自信がついたようです。今度は、山中湖や西湖にも挑戦すると意気込んでいるところですよ。

キャンプの他に、主人は学生時代からウインドサーフィンやスキー、テニス、最近はゴルフ等のスポーツも楽しんでます。また、文化面では合唱団に所属し活躍しています。私も、ジャズダンス、水泳、習字や編物などを楽しんでいます。さらに、自分を磨く趣味をひとつでもふやせたらと考えています。

子どもは親の姿を見て育ち、親が興味を持つものに同じように興味をしめすのではないのでしょうか。私自身も学生時代、親がやっていったというスポーツのクラブに入っで、それをやったことで親と同じ感動を得られたという思いがしています。そういう意味で、親が色々なものに興味を持ち行うことで環境を作ると、見えない子どもたちの才能をのびてやることでできるのではないのでしょうか。

これからも、家族で色々なスポーツや趣味を楽しんでいきたいと考えています。

部門賞（芸術・文化・娯楽部門）

「富士女性センターを利用して…」

前田 武子

先日、県立富士女性センターへ「郷土と文学」の講演を聴きに行ってきました。講師は、都留文科大 学関口安義先生で、山梨県にゆかりのある作家とその作品について、含蓄のあるお話を聞き、格調高い

文学の片鱗に触れる機会を持つことができました。先生の資料に列記された作者の中より、特に感銘深く印象に残った李良枝さんの作品を読んでみようと思いました。講演終了後、会場で同席した友人